

平成21年度倉敷市立自然史博物館協議会 議事録（要旨）

（開催日時） 平成21年8月5日（水）14時～16時

（開催場所） 倉敷市立自然史博物館講義室

（協議事項） 平成20年度事業報告について
平成21年度事業について

（報告） 文部科学省在外派遣研修報告について

（その他） 平成22年度事業計画について
その他

（出席委員） 榎本敬会長，大本芳子委員，河邊誠一郎委員，木下延子委員，佐藤國康委員，裾分由美子委員，積木久明委員，藤原純子委員，溝手啓子委員，山地治委員

（欠席委員） 定金司郎委員，野瀬重人委員

（事務局） 橋本教育委員会参事，安藤生涯学習部長，安原館長，江田主幹，狩山主任，奥島主任，西井主事，武智学芸員，田中（インターンシップ学生）

（傍聴者） なし

《議事録（要旨）》

1 開会

2 開会あいさつ

橋本教育委員会参事

3 委員・職員自己紹介

4 協議

（1）平成20年度事業報告について

（事務局説明）20年度館報を資料として，特別展「倉敷市立自然史博物館秘蔵お宝展」等を中心に報告。

会 長：事前に資料をお送りいただいたので見ていただいていると思う。意見・質問はあるか。

(委 員) 質問・意見などなし。

会 長：今年から施設の面積を館報に掲載したということだが、毎年掲載する必要があるのか。

事務局：1階の改装以来、新しい施設概要を作成できていないので、館の概要を説明する資料がなかった。視察などに対応できるように、館報に掲載した。

会 長：平成20年度事業報告については異議なく了承されたものと認める。

(2) 平成21年度事業について

(事務局説明) イベントカレンダーを資料として、特別陳列や自然観察会、11月3日は自然史博物館まつりなどを中心に説明。引き続いて、特別展「岡山県の樹木図鑑」の概要を紹介。

会 長：質問はあるか。

委 員：特別展の開会から半月経ったが、相談コーナーやクイズラリーの様子はどうか。

事務局：昨日(8月4日)現在の入館者数は3,190名で、前年の特別展「秘蔵お宝展」より若干少ないが、アンケート調査では満足度94%と高い評価をいただいている。クイズラリーについては、難しいけれど解けて良かったという意見もある。

委 員：クイズラリーの問題が毎週変えられているのに、観覧者があまり参加していない。展示に並べているだけではやろうと思わないのではないか。受付でクイズラリーをやっていることを来館者に声かけをしたらどうか。

事務局：入館者の10分の1程度の方がクイズラリーの回答を出してくださっている。少しでも大勢の方に参加していただけるよう、受付での声かけを考えたい。

委 員：図鑑の分布図はオリジナルか。

事務局：オリジナルである。分布プロットは当館の収蔵標本のデータをもとに作成している。ベースの地図は国土地理院のものを使用し、フリーソフトウェア「カシミール3D」を使って作成した。

会 長：今年度の全体予算は昨年度と比較してどうなっているか。予算は減るばかりだと思われるが。

事務局：人件費を除いて、昨年度は9百数十万円だったのが、今年度は8百40万円に減った。

委 員：人件費を含めるかどうかの問題はあるが、いずれにしても年度間の比較ができるような資料を提示してほしい。20年度歳入の決算額が予算額の3分の1と大きくずれているものもある。なぜこのようなことになったのか。

事務局：特別展開催期以外の有料入館者数については直前の12か月の同時期のデータをそのまま採用して見積もりを出しているが、特別展開催期については、過去の特別展のデータを参考にはするものの、毎年まったく新しい初めての内容で開催するので有料入館者数の予測が大変難しい。20年度に関しては、前年に好評だった「恐竜展」のデータをもとにそれよりも若干下回る予測のもとに見積額を算出したが、結果的にその予測よりもさらに下回った。年によっては逆の場合もある。書籍の売り上げについても同様。

委 員：説明を聞いてもよく理解できない。この件について監査で指摘はなかったか。

事務局：なかった。

委員：次回から見積もりを現実に近いものにされるよう望む。博物館の予算をもっとつけるように働きかけている。予算を増やすためにはもっと説得力のある予算を組んだらと思う。

事務局：予算額の見積もり方法の検討、予算額を年度間で比較しやすい資料の提示の2点について承った。

会長：平成21年度事業については異議なく了承されたものと認める。

5 報告

(1) 文部科学省在外派遣研修について

(事務局報告) 奥島がパワーポイントで約30分間報告。

委員：(海外研修に) 参加してよいことがたくさんあったと思う。ほかの職員の方にも積極的に参加していただきたい。私もフランスを訪れたが、圧倒的な迫力・センスの良さがある。市の方には職員が参加しやすいように配慮をお願いしたい。行かないとわからないことが多々ある。

委員：バーゼル自然史博物館と当館では差がありすぎる。

委員：野外活動と友の会活動がバーゼルでも評価されたことは注目に値する。当館の場合は、予算がないから友の会がいろいろやっている。ぜひ予算を増やして収蔵スペースの確保もお願いしたい。

委員：「倉敷の自然をまもる会」としては野外活動を重視している。実際に触れてみる必要がある。今は奥西坂で活動しているが、酒津の高梁川に数年後に橋が架かりそうなので八幡山の眺めが今後どうなるか。その付近の土地活用も市で考えたらどうか。

6 その他

(1) 平成22年度事業計画について

(事務局説明) 学芸業務の4つの柱をバランス良く継続して行っていきたい。特別展は総合分野で、増えている生き物、減っている生き物を扱った内容を計画している。

会長：少し長期の計画のことだが、市の第6次総合計画で収蔵庫の拡張も含めて取り組みをする必要があると思うが、具体的にどのように取り組んでいるのか。収蔵庫の拡張をしないと乗り遅れる。

事務局：市有の空き施設もあるので、まだ具体的な場所は言える段階でないが、当館から近い所で収蔵スペースの確保を検討しているところで、今年度中に何とかなればと考えている。6次総への取り組みについては、自然史博物館の在り方についてまず教育委員会の中で考えていきたい。それが6次総の取り組みにつながると思う。

委員：館条例の業務内容に「倉敷」の文字は見当たらないが、調査区域を限っているわけではないのか。

事務局：設立当初は倉敷の自然とその背景として高梁川流域ということで始めたが、1階の拡張と展示更新を実施した時点で、岡山県内に自然史博物館ができないことから岡山県全域に広げた。

委員：22年度特別展の「増えているもの、減っているもの」というテーマは全国的視野で調べた方がよいと思うので、近隣他館と共同でやってみてはどうか。

事務局：西日本自然史系博物館ネットワークなどで連携を図りたい。

委員：部長さんの心強い意見をいただいた。教育委員会内だけでなく、市の環境関係の部署とも連携したら良いと思う。

委員：教育委員会の中で考えると今頃になって言われたのが寂しい。やはり教育委員会として博物館の位置付けが弱いと思う。文教委員会でも取り上げていきたい。

事務局：まずは、基礎部分をかためるために教育委員会内で博物館の在り方を考えるということ。

委員：これまでにやっておくべきことと思う。私も反省している。視察でも他都市の状況を見たい。

会長：他県ではどんどん県レベルのまとめられた植物誌が出版されているが、岡山県ではできていない。今回の特別展で木本の図鑑ができた。岡山県では、「備中植物誌」以来の網羅された図鑑で、このデータがあれば植物誌ができる。次は草本の図鑑をぜひお願いしたい。これは県自然保護センターでも岡山大学でもできない。当館でないとできないこと。狩山さんが研究報告に植物誌を小分けにして連載されているが、手伝う人はいると思うので一気にお金をかけて10年以内にやってほしい。

事務局：そのときはぜひ委員にもご協力をお願いしたい。

5 閉会あいさつ

安藤生涯学習部長：今後も皆様のお力添えをいただきながら発展していきたい。よろしくご指導願いたい。

6 閉会

(事務局) 協議会終了後(収蔵庫見学の後)、都合のつく方を特別展示室会場へご案内し、熱心にご覧いただいた。

以上の議事録を、平成21年8月5日開催の平成21年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録(要旨)とすることに同意します。

平成21年 8月13日

倉敷市立自然史博物館協議会

会長 榎本 敬

